肥前さが幕末維新博事務局

文化・スポーツ・観光の交流拠点 さが

- 文化

1 特色ある地域文化の保存・継承と魅力発信（企画調査費）

事業の目的

- 平成 30 年に、明治と改元されてから 150 年を迎えることを契機として、佐賀の偉業や偉人を顕彰し、その「志」を礎とした人づくり、地域づくりを行うとともに、世界文化遺産に登録された三重津海軍所跡をはじめとした本県が誇る本物の遺産などの文化的、歴史的な魅力・価値について、県内外に伝えていくことにより、県民の誰もが佐賀を大切に、佐賀のことを誇りに思う気持ちを高めていくことを目指す。
- 佐賀県の文化的、歴史的な魅力・価値を通して、佐賀のことを誇りに思う県民の割合が、90%以上となることを目指す。
- 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である三重津海軍所跡は、埋蔵文化財であり、その価値を伝えることが難しいことから、見せ方を工夫して来訪者の満足度を高めるとともに、来訪者増に向けた様々な情報発信の取組等を行うことにより、年間 10 万人の来訪者数を目指す。

事業の実績

（単位：千円）

事業名	29 年度		前年度	
	(予算現額) 決算額	事業内容	(予算現額) 決算額	事業内容
< 主要事項 > 明治維新 150 年記念 さが維新事業 [地方 創生推進交付金]	(1,355,025) 1,348,236	肥前さが幕末維新 博覧会の開催 ・ テーマ館の開設及 び運営 ・ 先覚者顕彰像の設 置 ・ プレイベント ・ 広報、プロモーション展開 明治維新 150 年記 念さが維新交付金		
明治維新 150 年記念 事業計画策定			(9,863) 9,374	事業計画策定 ・ 現状分析 ・ 事業内容の検討 ・ 実施体制の検討

事業名	29年度		前年度	
	(予算現額) 決算額	事業内容	(予算現額) 決算額	事業内容
明治維新150年記念 情報発信事業			(40,000) 39,990	情報発信 ・新聞、テレビなど 関連イベント ・シンポジウム開催
世界遺産登録・活用 推進事業	(22,859) 22,549	普及啓発・広報 ・出前講座 ・広報ツール作成等 佐賀市への補助 ・来訪者対策(案内誘 導員、周辺警備、パ ンフ作成、記念イベ ント実施、来訪者意 識調査) 関係区市連携事業 ・世界遺産協議会負 担金(世界遺産委員 会決議への対応、理 解増進事業、人材育 成等)	(20,066) 19,042	普及啓発・広報 ・出前講座 ・記念イベント ・広報ツール作成等 佐賀市への補助 ・来訪者対策(案内誘 導員、周辺警備、ガ イド養成、パンフ作 成) 関係区市連携事業 ・世界遺産協議会負 担金(世界遺産委員 会決議への対応、理 解増進事業、人材育 成等)
世界遺産登録・活用 推進事業(情報発 信・誘客対策)	(36,710) 36,208	情報発信・誘客対策 ・体験型の集客イベ ント開催 ・情報発信ツール(シ ョートムービー)作 成及びそれを活用 した情報発信(福岡 TVCM等) 現地コンテンツの 充実 ・みえつタイムクル ーズの改訂(ラウン ドビジョン)、機器 更新(みえつSCOPE)	(37,506) 37,500	情報発信・誘客対策 ・体験型の集客イベ ント開催 ・イベント告知を兼 ねた情報発信(九州 版旅行雑誌等) 現地コンテンツの 充実 ・団体対応のための現 地コンテンツ整備 (ドームシアター)

事業の成果

- ・ 佐賀県の文化的、歴史的な魅力・価値を広く伝える取組を行うことで、佐賀のことを誇りに思っている県民の割合が90%以上となることを目指して明治維新150年記念さが維新事業に取り組んできたが、微増にとどまっている。
- ・ 三重津海軍所跡への年間来訪者数を10万人とすることを目指して様々な企画や広報に取り組んできたが、わずかに目標を下回った。

総合計画2015指標の達成状況

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		(目標) 実績	(目標) 実績	(目標) 実績	(目標) 実績
佐賀県の文化的、歴史的な魅力・価値を通して、佐賀のことを誇りに思っている県民の割合	%	(-) -	(-) 64.4	(80.0) 66.4	(90.0)
三重津海軍所跡の来訪者数	人	(100,000) 181,280	(100,000) 124,730	(100,000) 97,852	(100,000)

施策の取組状況、要因分析、対応方針

<進捗・達成状況>

- ・ 肥前さが幕末維新博覧会の開催に向け、幕末維新記念館や葉隠みらい館、リアル弘道館（平成30年4月開館）、唐津サテライト館、鳥栖サテライト館などのテーマ館や偉人モニュメントを設置した。また、全県的な盛り上がりや博覧会開催機運を高めるため、トークイベントなど関連イベントの開催、県内外でのプロモーション及び市町の顕彰事業の支援等を実施したが、佐賀のことを誇りに思う県民の割合は微増にとどまった。
- ・ 平成29年度における三重津海軍所跡への来訪者数は、実際の誘客（特に、福岡都市圏からの誘客）につなげることを意識した情報発信及び誘客対策事業として、キャッチコピー（「恋する、みえつ。」）の設定及びプロモーション動画の制作並びに三重津海軍所跡を舞台とした「リアル宝探しゲーム」及び「世界遺産スーパーライブ2018」等に取り組んだが、世界遺産登録で大きな注目を集めた平成27年度と比較すればほぼ半減している。
- ・ 三重津海軍所跡では本格的なガイダンス施設が整備されておらず、史跡に隣接する佐野常民記念館内で暫定的なガイダンスが行われている。一方で来訪者の満足度向上とリピーター獲得に向けて県が整備したVR機器やCG映像を活用した現地コンテンツは、ガイドによる解説等と相まって来訪者から高い評価を得ている。

<要因分析>

- ・ 肥前さが幕末維新博覧会の開幕が年度末であったこともあり、博覧会の効果が十分には発現されておらず、佐賀のことを誇りに思う県民の割合は、微増にとどまっている。
- ・ 元々著名な観光地ではなかったところが世界遺産に登録された先行事例でも見られる傾向ではあるが、世界遺産登録から一定期間が経過したことで、世間一般の注目の度合いが薄れることは

避けられず、特に平成 29 年度は猛暑、長雨、記録的寒波の年であったこともあり、来訪者数は減少した。

- ・ 暫定的なガイダンスでは、スペースや展示環境の制約もあり十分な展示解説が行えておらず、遺構の実物を見てもらうことができない理由についても十分に理解してもらうことができていない。また、遺構の実物を見たい、遺構や船の大きさを体感できるものが欲しい等の声が根強く寄せられており、埋蔵文化財をどのように魅力的に見せるのかという課題がある。

<対応方針>

- ・ 平成 31 年 1 月まで開催する肥前さが幕末維新博覧会の中で、様々なイベントを開催したり、県内外での広報活動に取り組むことにより、佐賀への誇りの醸成につなげていく。
- ・ 三重津海軍所跡は、維新博のパビリオンの一つとして位置づけており、今後、より連携を深め、様々な博覧会関連企画を行うことで、更なる三重津海軍所跡の魅力発信に努め、誘客につなげていく。
- ・ 佐賀市では、平成 33 年の開館に向け新たなガイダンス施設整備の検討が進められていることから、県としては、現在高い評価を得ている V R 機器や C G 映像を活用したコンテンツの魅力アップ等に取り組み、新たな来訪者開拓に加え、リピーター獲得を目指す。